

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究条件を充実・整備するため、前期課程、後期課程とも1人1人のブースを確保する。	→ブース数。	D	D	/	/	/
		/	/	/	/	/
		/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 (説明) 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備を整備するといった視点からすれば、最大の問題は研究の場にあるといえる。大学院教育の充実をはかり、社会的貢献において実績をあげる人材と優れた若手研究員の輩出を目指すなら、研究条件の充実・整備に力を入れ、できれば1人1人のブースを確保していく必要がある。現在、前・後期合わせて55名程が在籍しているがブース数は10に過ぎない。そのため多くの院生は大学院生室を共同で使用するという劣悪な環境に置かれている。今まで手掛けられていなかっただけに、優秀な新生を集め、院生を順調に育てるなら、本格的な研究の場を整備することこそが急務となっている。
その他	

《評価指標データ》

- 専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】
- 専任の研究旅費【大学基礎データ】
- 学内共同研究費【大学基礎データ】
- 教員研究費内訳【大学基礎データ】
- 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
- 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
- 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
- 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
- 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	現状を見る限り、大学院生室は学生数の割に狭く、研究用の机と椅子の数が足りず、非近代的であるため、大学院生室を個人研究に適したいわゆる学習の場とするよう改善すべき。
	その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	後期課程の大学院生には個人研究の場の確保が不可欠となるから、後期課程収容定員の15ブースを商学部本館2階の1つの教室を改装してでも確保すべき。前期課程生に対しては現大学院生室を整備し、せめて2人に1ブースの確保を目指す。
	その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	大学院生室と教室のリフォームによって上記基準によるブースを組み入れるとともに、各ブースにPCを1台ずつ設置するのが理想である。
---	---------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

< 評価専門委員会の評価 >

【学外委員】

○大学院生のための研究環境の整備について、更なる工夫が求められます。

【学内委員】

○研究施設・設備（ブース）以外の要素についても、現状説明が求められます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・本項目における現状説明はブースの件だけでしょうか。
- ・研究施設・設備以外の要素についても、記述が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 商学研究科の利用可能な予算の多くをブースや学生用パソコンのリース代などに充当し、学生の教育研究環境の向上に努めているが、まったく不十分である。ブース以外ではほとんど予算がつかず、教員指導用の外国語テキストすら補助購入できない状態である。現状として、商学研究科の予算総額は本当にわずかしく、その用途も制限されており、商学研究科として教育研究を支援する環境を整備することは不可能である。